

令和3年度 帯広市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和4年5月
帯広市（北海道）

○計画期間:令和2年4月～令和7年3月(5年0月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和3年度終了時点(令和4年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市は、令和2年4月以降、第3期中心市街地活性化基本計画に基づき、計画に位置づけた51事業（計画当初50事業、計画変更で1事業追加）を推進している。

認定計画における令和3年度終了時点の概況については、平日昼間の歩行者通行量は9,782人となり目標値（令和6年）14,800人及び基準値（平成30年）13,756人を大きく下回ったものの、前年比では320人の増加となった。要因としては前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言、まん延防止等重点措置などによる外出・感染拡大地域との往来自粛による域内外を問わず大幅な人流減少によるもの。また、前年同様、計画事業のうち、多くの事業が中止ないし規模縮小を余儀なくされ、にぎわいは大幅に減少している。ただ、令和3年度には主要事業の一つである西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業の完了により、商業テナントの入居や、19階建て分譲マンションへの入居が進み始めた影響から周辺の調査地点においては前年対比で増加となり、今後さらなるにぎわい創出効果の発現に期待している。

まちなか居住者数については、2,805人（令和3年9月末）となり目標値（令和6年9月末）2,820人を下回ったものの、前年比では180人の大幅増加となった。主な要因としては西3・9周辺地区第一種再開発事業完了による19階建て分譲マンションへの入居が進み始めたことがあげられ、今後さらなる居住者増加が見込まれる。また、中心市街地における地価については評価地点による増減はあるものの、平均値としては若干の上昇となっている。上昇の理由としては、再開発事業の完了に伴い、居住者や来街者数が増加することへの期待感などが考えられる。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり厳しい状況ではあるものの、計画事業の一つであるコミュニティ・ホテルを活用した来街促進事業と関連して、感染症流行の収束を見据えた域外のワーケーション利用者を取り込む新たな動きも生まれてきている。令和3年度には、コミュニティ・ホテル別館が開業し、令和2年に十勝シティデザイン㈱、第一生命保険㈱、帯広市の3者で締結した、「関係人口創出・拡大に関する協定」に基づき、別館1階にはコワーキングスペースが設置され、コミュニティ・ホテル利用者だけでなく、地域住民や地域外からの訪問・滞在者にも無償で利用できることとした。

また、令和2年度より中心市街地活性化協議会と連携し、中心市街地における「意欲的なプレーヤー」を掘り起こすため創設した元気な中心市街地づくり促進事業では、令和3年度に2事業者を採択したことで、今後のにぎわい創出が期待される。本補助事業は令和4年度も引き続き実施することが決定しており、今後も本事業のほか、「まちなか活性化懇談会」など、中心市街地活性化協議会との連携を図りながら、計画推進に向け、取り組んでまいりたい。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度9月末日)

(中心市街地 区域)	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
人口	2,558 人	2,625 人	2,805 人			
人口増減数	—	67 人	180 人			
自然増減数	—	△25 人	△15 人			
社会増減数	—	92 人	195 人			
転入者数	—	259 人	342 人			

(2) 地価

(単位：円/㎡)

	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
中心市街地 商業地域平均	67,933	67,766	68,366			
帯広 5-1(公) (西2南9)	104,000	103,000	101,000			
帯広 5-1(基) (西1南10)	104,000	104,000	103,000			
帯広 5-2(公) (西3南7)	52,000	52,000	52,500			
帯広 5-4(公) (西5南5)	39,600	39,600	41,700			
帯広 5-7(公) (大通南10)	55,400	55,400	56,000			
帯広 5-8(公) (西5南12)	52,600	52,600	56,000			

2. 令和3年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

認定計画における主要事業のうち、令和3年度は西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業におけるすべての工事が令和4年2月までに完了した。令和2年4月竣工の事務所棟は令和3年度末までに8割以上が入居している。また令和2年10月竣工の19階建て分譲マンション棟は147戸すべてが完売し、幼稚園の送迎バスが来るのを待つ親子連れの姿が見られるようになった。令和3年11月竣工の店舗棟では、同年12月にコンビニエンスストア、本年3月にコーヒーショップが開店するなど、来街者や居住者の増につながる動きが見られた。

しかし、新型コロナウイルス禍により、小売業、飲食業とも売上の低迷が続いた。まちなか歩行者天国をはじめ、例年中心市街地で開催されていた催しは令和3年度も中止となった。

その一方で、帯広市では、認定計画における平日昼間の歩行者通行量の増、まちなか居住者数

の増に資する民間の取組を支援するため、令和２年度に「元気な中心市街地づくり促進事業」を創設した。令和３年度には、当該事業に採択されたサブスク（定額飲み放題）サービスも行うテイクアウト型のコーヒーショップがオープンし、通勤時や昼休み終了時にコーヒーを片手に職場に戻る人たちの姿が目立つようになった。

また、新型コロナ後を見据え、管内での令和３年度中の新設会社は平成２９年度以来、初めて増加に転じた。中心市街地においても飲食店のほか、コンサルタント会社、不動産会社などが出店している。また、コミュニティ・ホテルの別館がオープンするとともに、同ホテル会社が中心となって地域資源の新たな情報発信ツールづくりが進められている。

年度中に開始が予定されていた西３・１０東地区優良建築物等整備事業が見送りとなったものの、新たな芽吹きが広がっていることは、今後のまちなかの活性化に大いに資すると期待される。

中心市街地活性化協議会においては、意欲的なプレイヤーが委員として参画しており、さらに多くの市民や事業者の意見を取り入れつつ、新型コロナ下、人口減少下における中心市街地のあり方について、今後においても先取的な議論をしていきたいと考えている。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
平日昼間を中心とした来街者を増やす	歩行者通行量 (平日昼間 9～17時)	13,756 人 (H30)	14,800 人 (R6)	9,782 人 (R3)	C	—	①
	【参考指標】 中心市街地の 宿泊客延べ数	96.6 万人泊 (H30)	100.5 万人泊 (R6)	763,350 人 (R3)	C	—	①
	【参考指標】 歩行者通行量 (平日＋休日)	55,773 人 (H30)	58,700 人 (R6)	28,104 人 (R3)	C	—	①
まちなか居住者を増やす	まちなか 居住者数	2,666 人 (H30.9 末)	2,820 人 (R6.9 末)	2,805 人 (R3.9)	B	—	①

< 基準値からの改善状況 >

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 >

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ 1、2 とする。

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者通行量（平日昼間 9～17 時）」については、前年に引き続き、新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響を受け、目標値を大きく下回った。今後も新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しながら、にぎわいを創出することを模索していく必要がある。主要事業の一つである「西 3・9 周辺地区第一種市街地再開発事業」が完了し、商業テナントの入居や 1 9 階建て分譲マンションへの入居が進んだことから効果が発現してきている。今後は、「起業家がつながる拠点運営事業」等によるビジネス利用客の取り込み、「元気な中心市街地づくり促進事業」による中心市街地における魅力的で革新的な事業の実現などにより、にぎわいの創出に伴う歩行者通行量の増加を図り、目標達成を目指していく。

「まちなか居住者数」については、本計画事業である「西 3・1 0 東地区優良建築物等整備事業」が新型コロナウイルス感染症の影響で事業の着手を見送っているものの、「西 3・9 周辺地区第一種市街地再開発事業」が計画どおり完了し、本事業による 1 9 階建て分譲マンションは全戸完売しており、入居の進捗により効果も発現してきており、最新値は目標値に迫る結果となった。今後、完了済みの事業効果の更なる発現により、目標達成が見込まれる。

【参考指標】「中心市街地の宿泊客延べ数」については、新型コロナウイルス感染症による外出自粛要請やイベント中止により、観光客やビジネス客数が大幅に減少し、目標値を大きく下回った。今後の展望については、新型コロナウイルス感染症で宿泊客数が減少している中で、国等の施策も絡めた旅行需要の回復やウィズコロナ時代の新しい旅のスタイルの定着により、宿泊客数の回復が予測され、目標の達成が見込まれる。

【参考指標】「歩行者通行量（平日＋休日）」については、「歩行者通行量（平日昼間 9～17 時）」と同様、新型コロナウイルス感染症の影響に加え、帯広まちなか歩行者天国事業や十勝管内最大のまつりであるおびひろ平原まつり等の大人数の集客が見込まれるイベントが中止になったこと、夜間についても屋台村「北の屋台」等の飲食店の客数が減少し、目標値を大きく下回った。今後の展望については「歩行者通行量（平日昼間 9～17 時）」に加え、新型コロナウイルス感染症の収束により、十勝管内最大の食と音楽のイベントであるとかちマルシェなど各種イベントが開催されることによる休日のにぎわいの創出のほか、夜間の中心市街地への客数が増加することに期待したい。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

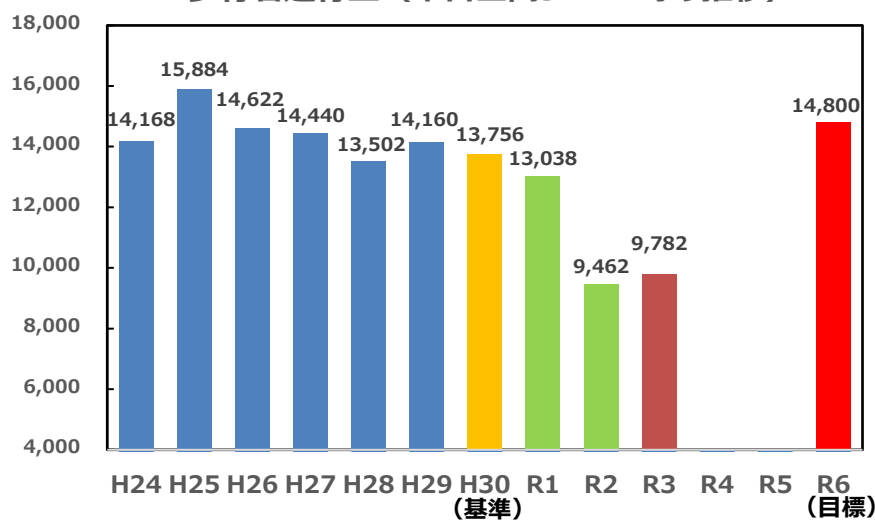
令和 2 年度フォローアップから、見通しの変化はない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「歩行者通行量（平日昼間 9～17 時）」※目標設定の考え方は基本計画 P63、P65～70 参照

●調査結果と分析

歩行者通行量（平日昼間9～17時の推移）



年	(人)
H30	13,756 (基準年値)
R1	13,038
R2	9,462
R3	9,782
R4	
R5	
R6	14,800 (目標値)

※調査方法：午前9時～午後5時までの歩行者通行量を測定

※調査月：各年6月最終週又は7月の第1週金曜日（休日に前年と同じイベントが行われる週に合わせて決定）

※調査主体：帯広商工会議所

※調査対象：中心市街地区域内計18か所における「中学生以上の歩行者」



(単位：人)

	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
①旧ヨーカドー東側	460	240	284			
②セントラル十勝ビル西側	460	324	528			
③藤丸南側	1,164	1026	910			
④マルキチパーキング北側	284	320	350			

⑤ポテチーノ 南側	414	264	328			
⑥旧 au ショッ プ北側	308	210	250			
⑦北洋ビル跡 東側	742	752	812			
⑧共同ビル西 側	700	480	382			
⑨アサノカメ ラ前	282	266	192			
⑩旧ベルナ前	238	278	204			
⑪だるま川上 薬局東側	446	346	312			
⑫北の屋台東 側	264	246	222			
⑬立花ビル前	494	416	414			
⑭多目的広場 西側	562	330	316			
⑮多目的広場 東側	648	402	456			
⑯ふじもり前	970	710	716			
⑰帯広駅東コ ンコース入口	3,254	2,018	2,366			
⑱ホテル日航 ノースランド 帯広西側	1,348	834	740			
合計	13,038	9,462	9,782			

〈分析内容〉

令和３年度については、前年度から引き続き新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響により、大半の地点で基準値を大きく下回った。前年度から増加している地点の理由として、特に①、②などの南８丁目線沿いの地点は、「西３・９周辺地区第一種市街地再開発事業」の完了により、事務所棟にオフィスがある企業の従業員や１９階建て分譲マンションへの居住者が増加した影響が考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果①. 西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業（アルファコート帯広西3・9地区開発株式会社）

事業実施期間	平成29年度～令和3年度【済】
事業概要	大型商業施設が郊外に移転して以降空きビル状態が続き、中心市街地衰退の大きな要因の一つであった西3・9周辺地区を再整備し、事務所棟、19階建て分譲マンション棟、店舗棟などの建設により、都市機能の更新を図る事業
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（平成29年度～令和3年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】760人 【最新値】673人 本事業による居住施設の整備により歩行者通行量は264人、商業施設整備により496人、計760人の増加を見込んでいる。本事業は当初の計画どおり進捗し、令和2年4月に事務所棟・駐車場棟が完成、令和2年10月に分譲マンション棟が完成した。令和4年2月までに商業棟や自走式駐車場棟などの全ての工事が完了したことから、商業施設整備による歩行者量の増加として、計画策定時の試算通り、$2,080 \text{ 人} \times 15.1\% \times 2 \times 79\% = 496 \text{ 人}$を見込んでいる。また令和4年3月末における分譲マンションの成約割合は100%（令和4年3月末入居実績189人）であり、歩行者通行量としては$189 \text{ 人} \times 59.4\% \times 2 \times 79\% = 177 \text{ 人}$の増加と推定される。
事業の今後について	分譲マンション棟は、契約している未入居者の入居が見込まれる。今後、商業施設開業などにより、さらなる集客、にぎわいの創出が期待できる。

②. 西3・10東地区優良建築物等整備事業（有限会社ホテル十勝屋）

事業実施期間	令和3年度～令和5年度【未】
事業概要	JR帯広駅からほど近く、オフィスビル・ホテル・映画館などの娯楽施設が集中する地区で宿泊施設・商業施設・居住施設等からなる複合施設を整備する事業
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）（令和3年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】392人 【最新値】0人 本事業による歩行者通行量は、居住施設の整備により20人、商業施設整備により155人、ホテルの整備により217人、計392人の増加を見込んでいる。令和3年に事業に着手する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、現在、事業の着手を見送っている状況である。

事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業着手を見送っている状況であるが、現状では事業内容の変更はなく、今後事業着手となることで、効果の発現が期待できる。
-----------	---

③. 移住促進事業（UIJ ターン促進事業）（帯広市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	首都圏での移住相談会の開催や、UIJ ターン希望者への地元企業見学ツアーの実施のほか、UIJ ターン希望者に対する転居費用の補助等により、移住促進を図る事業
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和 2 年度～令和 6 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】18 人 【最新値】2 人 令和 3 年度の本事業による帯広市への移住者の数は、移住を具体的に検討している移住希望者を対象としたマッチングイベントの実施などにより 27 人であり、そのうち、中心市街地エリアにおける居住人口は 2 人であったことから、歩行者通行量増加数は $2 \times 59.4\% \times 2 \times 79\% \div 2$ 人となり、事業目標値である 18 人の増加を下回った。
事業の今後について	市が主体となり、首都圏での移住相談会を実施するほか、移住者に対する移住経費の補助等を行うことで、移住の促進を図るとともに、中心市街地の利便性や魅力の発信を行い、効果の発現を目指す。

④. 起業家がつながる拠点運営事業（公益財団法人とかち財団）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	「創業・起業、事業創発を目指す人材や支援者等が集い、交流する施設（とかちのやりたい実現カフェ LAND）」を中心市街地で運営することで、情報交換や勉強会等で日常的なにぎわいを創出する事業
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】51 人 【最新値】9 人 令和 3 年度の実績は新型コロナウイルス感染症の影響により、域内外問わず人流が減少し、$8 \text{ 人/日} \times 2 \text{ 地点} \times 57\% = \text{約 } 9 \text{ 人}$の増加に留まり、事業目標値である 51 人の増加を下回った。
事業の今後について	前年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数は伸び悩んでいる。一方、民間事業者からの連携依頼等、地域から協力を求める声も多くあることから、引き続き事業の相談対応や情報提供などを行うほか、新しいチャレンジやアイデアが生まれる場を提供していくことで効果の発現を目指す。

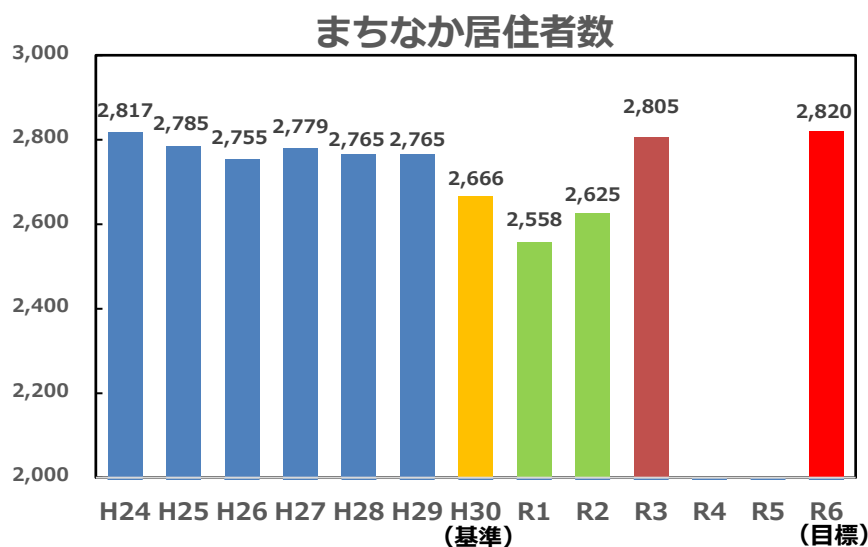
●目標達成の見通し及び今後の対策

令和３年度は前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、目標値を大きく下回る結果となった。今後も新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しながら、にぎわいを創出することを模索していく必要がある。

新型コロナウイルス感染症収束の見通しが立たない中ではあるものの、計画事業を着実にすすめる、効果を発現させることにより目標達成を目指してまいりたい。

(２)「まちなか居住者数」※目標設定の考え方は基本計画 P63、P71～72 参照

●調査結果と分析



年	(人)
H30	2,666 (基準年値)
R1	2,558
R2	2,625
R3	2,805
R4	
R5	
R6	2,820 (目標値)

※調査方法：９月末の住民基本台帳より集計（※H24～H29 は３月末）

※調査月：９月

※調査主体：帯広市

※調査対象：中心市街地地域

〈分析内容〉

第２期中心市街地活性化基本計画事業であった「開広団地再整備事業」により建設された有料老人ホームへの入居のほか、「西３・９周辺地区第一種市街地再開発事業」より建設された１９階建て分譲マンションが完売し、入居が進んでいることが、基準値を上回った大きな要因と考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業（アルファコート帯広西3・9地区開発株式会社）

事業実施期間	平成29年度～令和3年度【済】
事業概要	大型商業施設が郊外に移転して以降空きビル状態が続き、中心市街地衰退の大きな要因の一つであった西3・9周辺地区を再整備し、事務所棟、19階建て分譲マンション棟、店舗棟などの建設により、都市機能の更新を図る事業
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（平成29年度～令和3年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】281人 【最新値】189人 本事業における居住施設の整備により281人の居住者の増加を見込んでいる。本事業は当初の計画どおり進捗し、令和2年4月に事務所棟・駐車場棟が完成、令和2年10月に分譲マンション棟が完成し、令和4年2月までに商業棟や自走式駐車場棟など全ての工事が完了した。令和4年3月末における分譲マンションの成約割合は100%（令和4年3月末入居実績189人）であり、順調に進捗している。
事業の今後について	分譲マンション棟は、契約している未入居者の入居が見込まれる。今後、商業施設開業などにより、さらなる集客、にぎわいの創出が期待できる。

②. 西3・10東地区優良建築物等整備事業（有限会社ホテル十勝屋）

事業実施期間	令和3年度～令和5年度【未】
事業概要	JR帯広駅からほど近く、オフィスビル・ホテル・映画館などの娯楽施設が集中する地区で宿泊施設・商業施設・居住施設等からなる複合施設を整備する事業
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）（令和3年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】21人 【最新値】0人 本事業における居住施設の整備により21人の居住者の増加を見込んでいる。令和3年に事業に着手する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、現在、事業の着手を見送っている状況である。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業着手を見送っている状況であるが、現状では事業内容の変更はなく、今後事業着手となることで、効果の発現が期待できる。

③. 移住促進事業（UIJターン促進事業）（帯広市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	首都圏での移住相談会の開催や、UIJ ターン希望者への地元企業見学ツアーの実施のほか、UIJ ターン希望者に対する転居費用の補助等により、移住促進を図る事業
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】19人 【最新値】2人 令和3年度の本事業による帯広市への移住者の数は、移住を具体的に検討している移住希望者を対象としたマッチングイベントの実施などにより27人であったが、そのうち、中心市街地エリアにおける居住人口は2人であり、事業目標値である19人の増加を下回った。
事業の今後について	市が主体となり、首都圏での移住相談会を実施するほか、移住者に対する移住経費の補助等を行うことで、移住の促進を図るとともに、中心市街地の利便性や魅力の発信を行い、効果の発現を目指す。

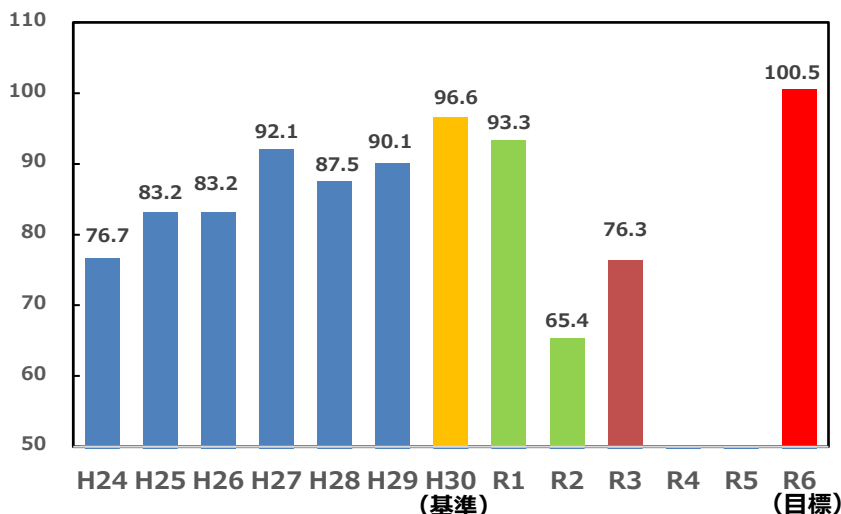
●目標達成の見通し及び今後の対策

令和3年度は、目標値を下回る結果となったものの、第2期中心市街地活性化基本計画事業であった「開広団地再整備事業」により建設された有料老人ホームへの入居進んでいるほか、「西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業」の分譲マンション棟の建設が完了し、令和4年3月末時点の成約割合が100%であり、今後、未入居者の入居が進むことにより、計画終了時点における目標達成は可能だと考える。

【参考指標】「中心市街地の宿泊客延べ数」※目標設定の考え方は基本計画 P63、P73～74 参照

●調査結果と分析

中心市街地の宿泊客延べ数



年	(万人泊)
H30	96.6 (基準年値)
R1	93.3
R2	65.4
R3	73.3
R4	
R5	
R6	100.5 (目標値)

※調査方法：北海道観光入込客数調査要領に基づき、帯広市が集計して算出

※調査月：当年度分を翌年4月～5月に集計

※調査主体：帯広市

※調査対象：中心市街地区域内に所在する宿泊施設の宿泊者

〈分析内容〉

新型コロナウイルス感染症の拡大による外出自粛要請やイベント中止により、観光客やビジネス客数が大幅に減少し、目標値を大きく下回った。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 西3・10東地区優良建築物等整備事業（有限会社ホテル十勝屋）

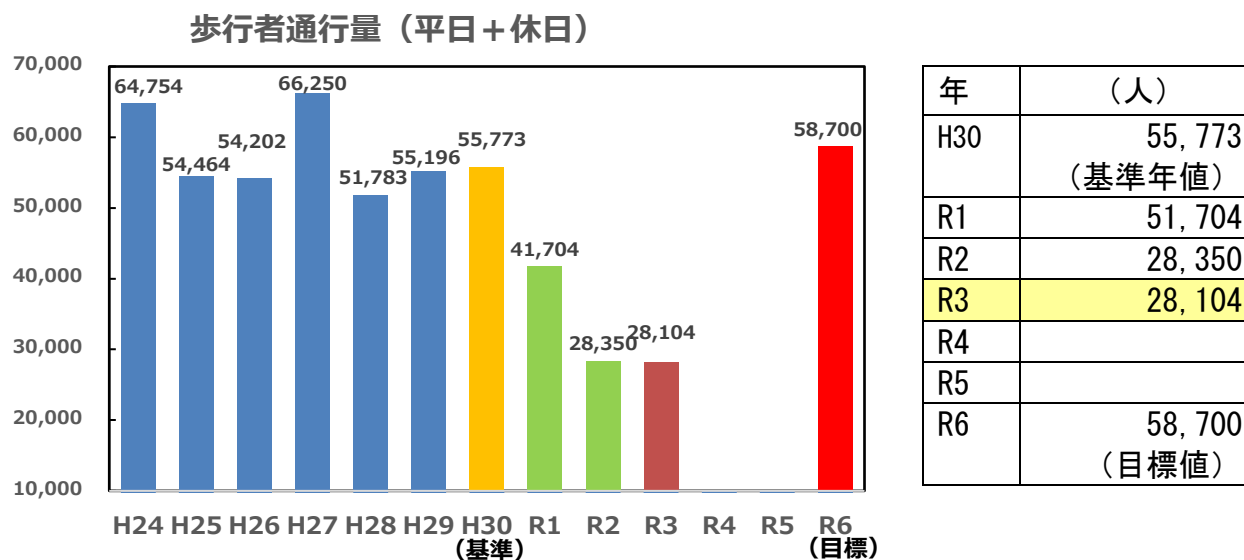
事業実施期間	令和3年度～令和5年度【未】
事業概要	JR 帯広駅からほど近く、オフィスビル・ホテル・映画館などの娯楽施設が集中する地区で宿泊施設・商業施設・居住施設等からなる複合施設を整備する事業
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(優良建築物等整備事業)(国土交通省)(令和3年度～令和5年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】3.9万人 【最新値】0人 本事業による宿泊施設の整備により宿泊客3.9万人泊の増加を見込んでいる。令和3年に事業に着手する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、現在、事業の着手を見送っている状況である。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業着手を見送っている状況であるが、現状では事業内容の変更はなく、今後事業着手となることで、効果の発現が期待できる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

新型コロナウイルス感染症で宿泊客数が減少している中、今後、国等の施策を絡めた旅行需要の回復やウィズコロナ時代の新しい旅のスタイルの定着により、宿泊客数の回復が予測され、目標達成が見込まれる。

【参考指標】「歩行者通行量（平日＋休日）」※目標設定の考え方は基本計画 P63、P75～77 参照

●調査結果と分析



※調査方法：午前9時～午後8時までの歩行者通行量を測定

※調査月：各年6月最終週又は7月の第1週金曜日及び日曜日（休日に前年と同じイベントが行われる週に合わせて決定）

※調査主体：帯広商工会議所

※調査対象：中心市街地区域内計18か所における「中学生以上の歩行者」



(単位：人)

	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
①旧ヨーカドー東側	832	482	540			
②セントラル十勝ビル西側	992	684	807			

③藤丸南側	3,773	2,086	1,875			
④マルキチパーキング北側	1,458	898	800			
⑤ポテチーノ南側	2,143	746	803			
⑥旧 au ショップ北側	1,810	716	632			
⑦北洋ビル跡東側	4,670	2,434	2,374			
⑧共同ビル西側	3,920	1,476	1,273			
⑨アサノカメラ前	1,877	1,088	939			
⑩旧ベルナ前	1,441	1,096	969			
⑪だるま川上薬局東側	2,533	1,538	1,436			
⑫北の屋台東側	2,041	1,626	1,356			
⑬立花ビル前	2,087	1,540	1,312			
⑭多目的広場西側	2,106	984	1,098			
⑮多目的広場東側	2,687	1,230	1,616			
⑯ふじもり前	4,265	2,332	2,774			
⑰帯広駅東コンコース入口	9,450	5,262	5,498			
⑱ホテル日航ノースランド帯広西側	3,619	2,132	2,002			
合計	51,704	28,350	28,104			

〈分析内容〉

令和３年度については、前年度から引き続き新型コロナウイルス感染症による外出自粛、帯広まちなか歩行者天国事業や十勝管内最大のまつりであるおびひろ平原まつり等が中止になったこと、夜間についても屋台村「北の屋台」等の飲食店の客数が減少し、前年比 204 人減少しているほか、目標値の 58,700 人を大きく下回った。前年度から増加している地点の理由として、特に①、②などの南 8 丁目線沿いの地点は、「西 3・9 周辺地区第一種市街地再開発事業」の完了により、事務所棟にオフィスがある企業の従業員や分譲マンションの居住者が増加した影響が考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業（アルファコート帯広西3・9地区開発株式会社）

事業実施期間	平成29年度～令和3年度【済】
事業概要	大型商業施設が郊外に移転して以降空きビル状態が続き、中心市街地衰退の大きな要因の一つであった西3・9周辺地区を再整備し、事務所棟、19階建て分譲マンション棟、店舗棟などの建設により、都市機能の更新を図る事業
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（平成29年度～令和3年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】1,924人 【最新値】1,706人 本事業による居住施設の整備により歩行者通行量668人、商業施設整備により1,256人、計1,924人の増加を見込んでいる。本事業は当初の計画どおり進捗し、令和2年4月に事務所棟・駐車場棟が完成、令和2年10月に分譲マンション棟が完成した。令和4年2月までに商業棟や自走式駐車場棟などの全ての工事が完了しことから、商業施設整備による歩行者量の増加として、計画策定時の試算通り、$2,080 \text{ 人} \times 15.1\% \times 2 \times 2 = 1,256 \text{ 人}$を見込んでいる。令和4年3月末における分譲マンションの成約割合は100%（令和4年3月末入居実績189人）であり、歩行者通行量としては$189 \text{ 人} \times 59.4\% \times 2 \times 2 = 225 \text{ 人} \times 2 \text{（平日＋休日）} = 450 \text{ 人}$の増加が推定される。
事業の今後について	分譲マンション棟は、契約している未入居者の入居が見込まれる。今後、店舗棟の完成、商業施設開業などにより、さらなる集客、にぎわいの創出が期待できる。

②. 西3・10東地区優良建築物等整備事業（有限会社ホテル十勝屋）

事業実施期間	令和3年度～令和5年度【未】
事業概要	JR帯広駅からほど近く、オフィスビル・ホテル・映画館などの娯楽施設が集中する地区で宿泊施設・商業施設・居住施設等からなる複合施設を整備する事業
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）（令和3年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】655人 【最新値】0人 本事業による居住施設の整備により歩行者通行量25人、商業施設整備により196人、ホテルの整備により434人、計655人の増加を見込んでいる。令和3年に事業に着手する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により、現在、事業の着手を見送っている状況である。

事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業着手を見送っている状況であるが、現状では事業内容の変更はなく、今後事業着手となることで、効果の発現が期待できる。
③. 移住促進事業（UIJターン促進事業）（帯広市）	
事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	首都圏での移住相談会の開催や、UIJ ターン希望者への地元企業見学ツアーの実施のほか、UIJ ターン希望者に対する転居費用の補助等により、移住促進を図る事業
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】23人 【最新値】2人 令和3年度の本事業による帯広市への移住者の数は、移住を具体的に検討している移住希望者を対象としたマッチングイベントの実施などにより27人であり、そのうち、中心市街地エリアにおける居住人口は2人であったことから、歩行者通行量増加数は$2 \times 59.4\% \times 2 \div 2$人となり、事業目標値である23人の増加を下回った。
事業の今後について	市が主体となり、首都圏での移住相談会を実施するほか、移住者に対する移住経費の補助等を行うことで、移住の促進を図るとともに、中心市街地の利便性や魅力の発信を行い、効果の発現を目指す。
④. 起業家がつながる拠点運営事業（公益財団法人とかち財団）	
事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	「創業・起業、事業創発を目指す人材や支援者等が集い、交流する施設（とかちのやりたい実現カフェ LAND）」を中心市街地で運営することで、情報交換や勉強会等で日常的なにぎわいを創出する事業
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】90人 【最新値】16人 令和3年度の実績は新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント利用客が非常に少なく8人/日×2地点＝約16人の増加に留まり、事業目標値である90人の増加を下回った。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数は令和元年度と比較し、減少したものの、民間事業者からの連携依頼等、地域から協力を求める声も多くあることから、引き続き事業の相談対応や

	情報提供などを行うほか、新しいチャレンジやアイデアが生まれる場を提供していくことで効果の発現を目指す。
--	---

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和3年度は、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、目標値を大きく下回る結果となった。今後も新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しながら、にぎわいを創出することを模索していく必要がある。

新型コロナウイルス感染症収束の見通しが立たない中ではあるものの、計画事業を着実にすすめる、効果を発現させることにより目標達成を目指してまいりたい。